

第5回「芥川作曲賞」決まる
伊左治 直 氏の作品「^{まげい てんにょ しちせき}畸形の天女／七夕」に

「芥川作曲賞」の第5回受賞曲は、8月27日（日）午後3時より東京・サントリーホールでの演奏会形式による公開選考の結果、伊左治 直氏の作曲による「^{まげい てんにょ しちせき}畸形の天女／七夕」に決定した。同氏には、賞状とあわせて賞金50万円が贈られる。また、今回特別賞として、佐治敬三奨励賞（賞金30万円）が田中カレン氏に贈呈された。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したもの。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考するという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっている。

なお、この日、公開選考演奏会に先だって、第3回受賞者・菊池幸夫氏の受賞記念サントリー音楽財団委嘱作「^{きんが}譚歌～管弦楽のための～」と同^{きる やとしろう}猿谷紀郎氏の委嘱作「^{ごきょうおうせき}互響應斥 Mutual Recognition」の初演が行われた。

▽第5回「芥川作曲賞」

伊左治 直（いさじ すなお）

<受賞理由>

豊かで鋭い感性による発想はきわめてユニークであり、制限された素材を新しい技法を駆使して展開させ、説得力のある表現の世界を開拓した。次代の日本の作曲界を担う大型新人としての将来性も高く評価された。

<略歴>

1968年5月29日埼玉県生まれ。東京音楽大学音楽学部作曲専攻を経て、95年同大学院修士課程終了。これまで、西村 朗、池辺晋一郎、湯浅譲二の各氏に師事。

91年<Heterochromia／残糸>が第60回日本音楽コンクール（室内楽作品）第2位（1位なし）。92年<LUNA（“血の婚礼”への前夜祭）>で第9回日本現代音楽協会作曲新人賞。94年<畸形の天女／七夕>が第63回日本音楽コンクール（オーケストラ作品）第1位、あわせて安田賞受賞。92年第5回トーキョー・サウンド・スプラッシュ、93年第3回アジア音楽祭、ステラ・ノヴァ・トーキョー等の音楽祭に委嘱作品、招待作品で参加。91年より同時代の作曲家、演奏家と現代音楽祭「冬の劇場」を企画し、以降

毎年開催。

▽「佐治敬三奨励賞」

田中 カレン（たなか かれん）

<略歴>

1961年4月7日東京都生まれ。青山学院大学フランス文学科中退後、82～86年桐朋学園大学にて作曲を三善 晃氏に師事。83年<トリステス>が第52回日本音楽コンクール（室内楽作品）第3位。同作品は84年ヴィオッティ国際作曲コンクールでも入賞。84年<プリズム>が第53回日本音楽コンクール（オーケストラ作品）第3位。85年<コンセール・カダンス>でトリエステ国際交響楽作曲コンクール第2位。85年<四重奏曲>で日仏現代音楽作曲コンクール第1位。86年<アナモルフォーズ>が日本交響楽振興財団第8回作曲賞入選。86年フランス政府給費留学生としてパリに留学、IRCAM（フランス国立音響音楽研究所）研究員となる。作曲をトリストラン・ミュライユ氏に師事。87年<アナモルフォーズ — 室内オーケストラのための — >でガウデアムス作曲賞第1位。88年村松賞受賞。90～91年文化庁海外派遣研修員としてフィレンツェで研修。作曲をルチアーノ・ベリオ氏に師事。これまでにISCM入選4回。作品はロンドンのChester Musicより出版されている。パリ在住。

今回の候補作品<ウェーブ・メカニクス — 20人の演奏者のための — >は、岩城宏之とオーケストラ・アンサンブル金沢演奏によるCD「21世紀へのメッセージvol. 2」（ドイツグラモフォン）に収録されている。

第5回芥川作曲賞 選考経過

1. 1995年5月12日（金）午後1時より東京紀尾井町、ザ・フォーラムにおいて予備選考会を開催。1994年4月1日より1995年3月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品約60曲を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下3作品を「第5回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は一柳 慧、黛 敏郎、湯浅譲二の3氏。（50音順）

- 田中カレン作曲 ウェーブ・メカニクス — 20人の演奏者のための —
Wave Mechanics for 20 instrumentalists
(初演：1994.8.23「オーケストラ・アンサンブル金沢第42回定期演奏会」)
- 伊左治 直作曲 畸形の天女／七夕
The heavenly maiden in deformation / weaver star

(初演：1994. 10. 5「第63回日本音楽コンクール本選会
作曲部門」)

●宮崎 滋作曲

オーケストラのための2つのオード
ZWEI ODEN für Orchester

(初演：1994. 4. 19「東京交響楽団特別演奏会 深新會オー
ケストラ展」

(演奏順)

- 1995年8月27日(日)、午後3時よりサントリーホールにおいて上記3曲を公開演奏(指揮 小松一彦、新日本フィルハーモニー交響楽団、フルート 中野真理 — 伊左治作品)。演奏終了後、15分の休憩をはさんで、直ちにステージにおいて3選考委員による公開討議を行なった結果、「第5回芥川作曲賞」受賞曲に伊左治 直氏の作曲による「畸形の天女／七夕」が選定された。
- 公開選考終了後直ちに同ステージにおいて贈賞式が行なわれ、サントリー音楽財団理事長・佐治敬三より賞状、賞金(50万円)が授与された。
なお、伊左治 直氏には、サントリー音楽財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成次第同財団主催のコンサートで初演される。(委嘱料100万円)
また、今回特別賞として、佐治敬三奨励賞(賞金30万円)が田中カレン氏に贈呈された。

〔ご参考〕

「芥川作曲賞」について

- 名 称
「芥川作曲賞」
- 選考対象
毎年、前年の4月1日から翌3月31日の間に国内外で初演された(放送を含む)新進日本人作曲家による交響管弦楽曲の中からもっとも清新かつ将来性に富む作品1曲を選定します。
- 選考委員
芥川作曲賞運営委員会(サントリー音楽財団より4名、日本作曲家協議会より3名、計7名で構成)が数名の選考委員を委嘱します。(本年は、一柳 慧、黛 敏郎、湯浅 譲二の3氏。)

4. 賞

- (1) 賞状、賞金50万円。
- (2) 受賞作曲家に新しい交響管弦楽曲を委嘱します。委嘱料100万円。
- (3) 委嘱作品は完成後、サントリー音楽財団の主催する公演で初演します。

5. 選考方法

- (1) 第一次選考会において候補作品数曲を選出します。
- (2) 公開演奏会形式で最終選考会を開きます。選考方法としては、まず候補作品数曲を一括演奏し、終了後その場で選考委員が公開討議を行ない、受賞作1作を選定、贈賞します。

6. 贈賞期間

1991年より2000年までの10年に10回の贈賞を行います。

●過去の受賞者

- 第1回(1991年) 高橋 裕 <Symphonic Karma>
- 第2回(1992年) 山田 泉<一つの素描 ピアノとオーケストラによるII>
- 第3回(1993年) 菊池幸夫<ピアノと管弦楽のための「曜変」>
猿谷紀郎<ファイバー・オブ・ザ・ブレス(息の綾)>
- 第4回(1994年) 江村哲二<ヴァイオリン協奏曲第2番「インテクステリア」>

以 上